

令和2年度スポーツ庁委託事業
武道等指導充実・資質向上支援事業（指導成果の検証）

武道種目（空手道）を男女共習で実施する上での成果と課題の調査

研究成果報告書

令和3年3月

麗澤大学

学長 徳永 澄憲
研究代表者 豊嶋 建広

本報告書は、スポーツ庁の武道等指導充実・資質向上支援事業委託事業として、麗澤大学が実施した「令和2年度武道等指導充実・資質向上支援事業（指導成果の検証）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

目 次

I. 委託事業の内容

I-1. 実施期間	p4
I-2. 事業の内容	
I-2-(1) 事業の概要と今後の課題	p4
I-2-(2) 実施体制	p6
I-2-(3) 事業の具体的内容	p7
I-2-(3)-①事業内容	p7
I-2-(3)-②実施日程	p8
I-2-(3)-③事業効果	p9
I-2-(3)-④事業効果の評価方法	p10

II. 調査結果および考察

II-1. 空手道授業の実施状況	
II-1-(1) 指導者の属性	p11
II-1-(2) 学校武道のための研修受講歴	p12
II-1-(3) 授業開始時期	p12
II-1-(4) 年間授業時間数	p13
II-1-(5) 指導体制	p14
II-2-授業の実施形態	
II-2-(1) 空手道を選択した理由	p15
II-2-(2) 授業形態	p16
II-2-(3) 男女共習実施理由	p17
II-2-(4) 男女共習実施時の工夫	p18
II-2-(5) 空手道授業の参考教材	p19
II-3. 授業の内容および成果	
II-3-(1) 授業の指導内容	p20
II-3-(2) 指導状況	p23
II-3-(3) 授業実施による生徒の変化	p24
II-3-(4) 安全対策およびケガの発生	p25
II-4. 今後の課題	
II-4-(1) 次年度空手道授業の導入予定	p26
II-4-(2) 導入予定の理由	p27
II-4-(3) 導入しない理由	p28
II-5. 生徒を対象とした空手道授業の調査	
II-5-(1) 生徒の属性	p29
II-5-(2) 男女共習による空手道授業の学習内容と調査	p30

III. まとめ

III-1. 今回の調査で明らかとなったこと	p32
III-2. 今後調査によって明らかにする必要があること	p33
III-3. 今後の課題	p33

I. 委託事業の内容

I-1. 実施期間

令和2年7月 ～ 令和3年3月10日

I-2. 事業の内容

I-2-(1) 事業の概要と今後の課題

事業概要

令和元年度スポーツ庁は複数の武道種目を選択して授業を実施する支援事業を新たに始め、27校の中学校がモデル実践校として空手道を実施した。そして令和3年度から中学校で導入される新学習指導要領においては、原則として男女共習で学習することが求められる。

現在、中学校における空手道授業の実施校数は、約10年で急激に増加してきている。しかし、これまで空手道授業に関する具体的な成果や課題を検証した報告はほとんどみられない。今後、空手道授業の実施形態、指導成果や課題の抽出、および実践的研究が必要である。そこで本事業は、武道種目（空手道）を男女共習で実施する上での指導成果と課題を明らかにし、それらの課題解決策を探ることを目的とした。

1. 男女共習による空手道授業の実施形態、指導成果や課題に関する調査（教員対象）

全国の空手道授業実施校の教員を対象とし、男女共習による武道（空手道）授業の「指導成果と課題（指導体制・方法・指導内容の工夫等）」に関するインターネットによる調査を実施した。財団法人全日本空手道連盟（全空連）が公表している空手道授業を実施している中学校450校とそれらが所在している市区町村教育委員会、全国の都道府県および政令指定都市に郵送による調査を依頼し、153校の回答を得た（回収率34%）。

2. モデル校における空手道授業実施の実施形態、指導成果と課題の調査（生徒対象）

研究代表者および研究協力者の2名が外部指導者として、千葉県長生村立長生中学校（1～2年生197名）および東京都板橋区立志村第三中学校（2学年および特別支援学級165名）において、空手道授業を実施した。そして、授業後に生徒を対象として空手道授業に関する調査を実施し、362名から回答を得た。

3. ワーキンググループおよび有識者会議における調査の作成・調査結果の検証

ワーキンググループにおいて男女共習による空手道授業の成果と課題を検証するため、オンライン会議による講演および討議を実施した。調査内容（空手道授業実施状況・指導成果および課題）と調査方法について検討した。また、得られた調査結果について分析・検証した。必要に応じて有識者会議の意見を聞いた。

今後の課題

令和2年10月現在、全空連により公表されている空手道授業実施校450校を対象に、武道（空手道）授業の実施状況および成果と課題に関するインターネット調査を行い、153校からの回答を得た（回収率34%）。

令和2年度に空手道授業を実施した学校は、153校中99校（64.7%）で、実施場所は体育館（81.8%）、配当時間は6～10時間（約55%）、実施時期は10～1月（約60%）が多かった。

約80%が男女共習で実施しており、そのうち基本動作が90%、基本形が60%と男女共習が多かった。空手道授業は「用具・道着が不要」、「直接の接触がなく安全に実施できる」等強みはある一方で、「教員の指導力」や「外部指導者の確保」等の課題が明らかになった。

次年度以降の空手道授業導入に関しては153校の回答者の6割（56%）が「予定」があると回答している。「導入予定の理由」においては、「思考力・判断力・表現力の習得」や「体力の向上」などの効果の面よりも「安全性が高い」、「用具が不要」、「男女共習が可能」、「道着不要」等の授業の実施しやすさが評価されていた。今後は「効果の面」でも評価されるような指導プログラムの作成が必要である。「導入しない理由」としては、「指導力に不安がある（60%）」、「指導者の確保ができない（82%）」といった指導者の問題が挙がっていた。今後、授業協力者の確保とともに空手道を専門としない教員が学校武道（空手道）のための研修を受講しやすいように工夫することや研修および教材の質をより高めていくことが課題となる。

I-2-(2) 実施体制

有識者会議や実践研究組織を下記のように設置した。

学校武道推進研究プロジェクト ワーキンググループ

【空手道授業の成果と課題、指導体制・指導内容等に関する調査内容の作成・調査結果の検証、モデル校における空手道授業の指導内容の提案】

豊嶋 建広 (麗澤大学 特任教授, 全日本空手道連盟学校武道推進委員, 日本武道学会理事)
井下 佳織 (麗澤大学 准教授, 全日本空手道連盟学校武道推進委員, 日本武道学会理事)
橋本 富太郎 (麗澤大学 准教授, 日本武道学会評議員)
大沼 博靖 (静岡産業大学 准教授, 麗澤大学非常勤講師)
岡崎 紀創 (公益財団法人 全日本空手道連盟 企画業務課)

学校武道推進研究プロジェクト 有識者会議

【ワーキンググループで作成した調査内容、実施した検証結果の検討・評価】

有竹 隆佐 (公益財団法人 全日本空手道連盟 専務理事)
前田 利明 (公益財団法人 全日本空手道連盟 常任理事)
日下 修次 (公益財団法人 全日本空手道連盟 理事・事務局長)
岩城 公二 (富山市立八幡小学校 校長, 全日本空手道連盟学校武道推進委員)
小山 正辰 (森ノ宮医療大学 特任教授, 全日本空手道連盟学校武道推進委員)
石川 周亨 (北海道余市町立旭中学校 教頭, 全日本空手道連盟学校武道推進委員)
日野 一男 (実践女子大学名誉教授, 全日本空手道連盟学校武道推進委員)
亀山 歩 (国士舘大学 講師 空手道部監督, 全日本空手道連盟学校武道推進委員)
竹見 国雄 (日本体育大学 非常勤講師 空手道部監督, 全日本空手道連盟学校武道推進委員)
野中 史子 (高知市立一宮中学校 教諭, 全日本空手道連盟学校武道推進委員)
佐藤 彰 (神奈川県立平塚工科高等学校 教諭, 全日本空手道連盟学校武道推進委員)
豊嶋 建広 (麗澤大学 特任教授, 全日本空手道連盟学校武道推進委員, 日本武道学会理事)
井下 佳織 (麗澤大学 准教授, 全日本空手道連盟学校武道推進委員, 日本武道学会理事)
橋本 富太郎 (麗澤大学 准教授, 日本武道学会評議員)
大沼 博靖 (静岡産業大学 准教授, 麗澤大学非常勤講師)
岡崎 紀創 (公益財団法人 全日本空手道連盟 企画業務課)

I-2-(3) 事業の具体的内容

① 事業内容

本事業は、男女共習による武道種目（空手道）の指導成果と課題を明らかにし、それらの課題解決策を探ることを目的とした。

1. 男女共習による空手道授業の成果と課題に関する調査（教員対象）

全国の空手道授業実施校の教員を対象とし、男女共習による武道（空手道）授業の指導成果と課題（指導体制・方法・指導内容の工夫等）に関してインターネットによる調査を実施した。アンケート調査の内容は、ワーキンググループおよび有識者グループにおいて検討し、37 問から成る質問紙を作成した。その後、インターネット調査会社電通マイクロミルインサイト株式会社にインターネット調査フォームの作成および調査結果の集計を依頼した。

アンケート調査の対象は、全空連により公表されている空手道授業実施校 450 校の教員とした。調査実施校への調査依頼にあたり、全国都道府県および政令指定都市の教育委員会（47 箇所）、空手道授業実施校の市区町村教育委員会（154 箇所）へ郵送により、アンケート調査への協力を依頼し、153 件の回答を得た（回収率 34%）。

2. モデル校における空手道授業実施および成果と課題の調査（生徒対象）

研究代表者および研究協力者の 2 名が外部指導者として、千葉県長生村立長生中学校（1～2 年生 197 名）および東京都板橋区立志村第三中学校（2 学年および特別支援学級 165 名）において、空手道授業を実施した。そして、授業後に生徒を対象として空手道授業に関する調査を実施し、362 名から回答を得た。また調査終了後、長生村立長生中学校において調査結果のフィードバックとヒアリング調査を実施した。

3. ワーキンググループおよび有識者会議における調査の作成・調査結果の検証

ワーキンググループにおいて男女共習による空手道授業の成果と課題を検証するため、オンライン会議による講演および討議を実施した。調査内容（空手道授業実施状況・指導成果および課題）と調査方法について検討した。また、得られた調査結果について分析・検証した。必要に応じて有識者会議の意見を聞いた。

②実施日程

実施日	実 施 内 容
令和2年9月	研究プロジェクト組織の設置：ワーキンググループを置き、必要に応じ有識者の意見を聞いた。
	モデル校（千葉県長生村立長生中学校）において男女共習による空手道授業実施し、生徒を対象に成果と課題の調査をした。
令和2年12月 ～令和3年1月	ワーキンググループで会議（オンライン）を開催し、全国の空手道授業実施校教員対象のインターネット調査の内容を検討し、作成した。
令和3年1月	有識者会議（オンライン）を開催し、ワーキンググループで作成した調査内容について意見を聞いた。
令和3年1月	ワーキンググループ会議（オンライン）を開催し、有識者の意見をもとに調査内容を修正した。その後、調査会社が作成したWeb調査フォームをワーキンググループで検討した。アンケートの回収率を上げるために全国の空手道授業実施校の他、都道府県・市区町村教育委員会へ調査依頼を郵送により実施した。
令和3年2月	全国の空手道授業実施校の教員を対象に、男女共習による空手道授業の成果と課題に関するインターネット調査を実施した。
	モデル校（東京都板橋区立志村第三中学校）において男女共習による空手道授業実施し、生徒を対象に成果と課題のアンケート調査を実施した。
	ワーキンググループ会議（オンライン）を開催し、インターネット調査結果の概要について検証した。
	有識者会議（オンライン）を開催し、ワーキンググループで検証した調査結果の概要について意見を聞いた。
令和3年3月	ワーキンググループ会議（オンライン）を開催し、調査結果の詳細について検証し、指導成果と課題をまとめた。
	千葉県長生村立長生中学校にいて、生徒対象に実施した男女共習による空手道モデル授業実施と成果と課題の調査に関する結果のフィードバックをするとともに全8回の授業実施状況等に関するヒアリング調査を行なった。

② 事業効果

本事業において「男女共習による空手道授業の指導成果と課題」に関する調査を実施することにより、これまで明らかとなっていなかった男女共習での武道授業の実施状況や成果と課題が明らかになった。それらを下記の3点にまとめる。

ア. 今回の調査で明らかとなったこと

- ・ 全日本空手道連盟（全空連）主催の学校武道の研修会受講歴を持つ教員は3割程度であった。男子の35%の参加に対して女性は18%で、女性にとってはより参加が難しい状況がわかる。
- ・ 空手道の指導の年間授業時間数は、各学年とも6時間、8時間、10時間に多く、学年での平均時間は7時間であった。その一方で、1～5時間の短い時間で実施している学校もあった。
- ・ 指導体制においては、3割以上が空手道を専門にしていない教員のみで空手道の授業を実施していると考えられた。
- ・ 授業で空手道が選定された理由としては、「用具が不要」「直接の接触や打撃がなく、安全が保ちやすい」「体操着で実施できる」が50%以上であり、授業として運営しやすいという面が明らかとなった。「外部指導者の協力が得られるため」は41%であった（複数回答可）。
- ・ 男女共習の実施理由は、「他の種目も男女共習で実施」が70%を占め、「実施しやすい」は30%程度であった。
- ・ 「団体形（グループワーク）」は約46%が共習で実施しているのに対して、男女別で実施しているが25%であった。
- ・ 「基本動作」や「形（個人）」が男女共習では実施しやすい。
- ・ 令和2年度空手道授業を実施している学校の約半数が全空連の指導書を活用していた。
- ・ 外部指導者の協力を得ているのは全体の約半数であり、最も多いのが「地域の指導者等」の協力であった。
- ・ 形の指導は全空連の基本形と沖縄県を中心に指導されている普及型を合わせると約90%に及んでいた。
- ・ 約束組手を指導していない学校は約半数で、その理由としては「授業時間数の問題（約44%）」や「指導者の指導力の問題（約31%）」であった。
- ・ 指導の成果として、「武道への興味・関心」「礼儀・礼節」の高まりが約75%と70%と高く、次いで「相手を尊重する意識・態度の向上」が44%であったが、「日常生活の態度」や「思考力・判断力・表現力」の向上が低い結果となった。
- ・ ケガの発生の有無では授業内外で4%と極めて低かった。

イ. 今後の調査によって明らかにする必要があること

- ・ 全空連主催の学校武道のための指導者研修に参加しない、あるいは参加できない理由。
- ・ 空手道を専門にしていない教員が、どのように空手道を指導し、どのような支援を必要としているか。
- ・ 約束組手を「男女共習」で実施している理由、および「男女別」での実施の理由。

- ・ 全空連の指導書を活用していない理由。

ウ. 今後の課題

- ・ 教員が全空連主催の研修に参加しやすいように一部オンラインを利用して参加期間を短くする方法を模索する。
- ・ 複数種目として指導しやすいように1～10時間の各指導時間数に応じた指導計画や教材を作成する。
- ・ 指導上の留意点において「課題を解決するための練習方法を選ぶことができるように課題に応じた練習方法を提示するなどの指導の工夫」ができるように具体例を示す。また複数種目として短い時間数での実施を考えると、「基本動作」の指導においても、同様の具体例を示す。
- ・ 「礼儀・礼節の高まり」を「日常生活の態度の向上」へと繋げるために指導内容を工夫する。
- ・ 「基本」の練習においても「思考力・判断力・表現力」が向上するように指導内容を工夫する。
- ・ 空手道授業の実施によって「効果の面」の評価が高くなるように指導内容を工夫する。
- ・ 授業協力者の確保と資質の向上が必要である。
- ・ 研修および教材の質をより高める。

④事業効果の評価方法

公益財団法人全日本空手道連盟および同連盟学校武道推進委員等で構成された有識者会議メンバーにより、調査内容および分析結果の検証内容について評価された。またモデル授業を実施した中学校で行った生徒を対象としたアンケート調査の結果を担当の保健体育教員にフィードバックするとともに、ヒアリング調査を実施した。その中で学習者側の「男女共習による空手道授業の成果と課題」を明らかにしたことの評価が得られた。

Ⅱ. 調査結果および考察

Ⅱ-1. 空手道授業の実施状況

Ⅱ-1-（１）指導者の属性

調査対象

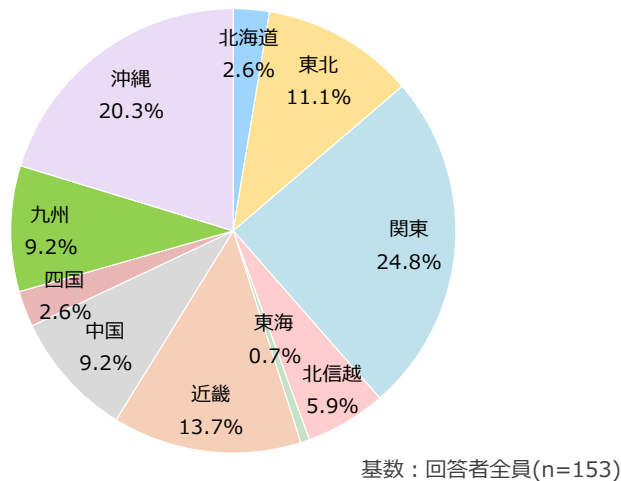
これまでに「空手道」の授業を実施したことがある全国の中学校 450 校（公益財団法人全日本空手道連盟調べ）にアンケート調査を依頼した。回収率は 34%であった。令和 2 年度に「空手道」の授業を実施していたのは回答数 153 校のうち 99 校（65%）であった。令和 2 年度に実施していない 54 校も過去に「空手道」の授業を実施していたと考えられる。

Q7 令和2年度にあなたの学校で授業として実施している武道種目を全てお選びください。

複数回答	n
全体	(153)
1 空手道	99
2 柔道	54
3 剣道	17
4 相撲	5
5 その他	4
6 武道種目を授業で実施していない	12
武道種目実施（計）	141
回答個数有効ケース数	(153)
回答個数平均	1.17

地 域

回答者は全地域に渡っていたが、北信越、四国、北海道、東海ではその割合が低かった。一方、関東と沖縄県が 20%以上で割合が高く、東北、近畿で 10%以上、中国、九州で 10%弱であった。

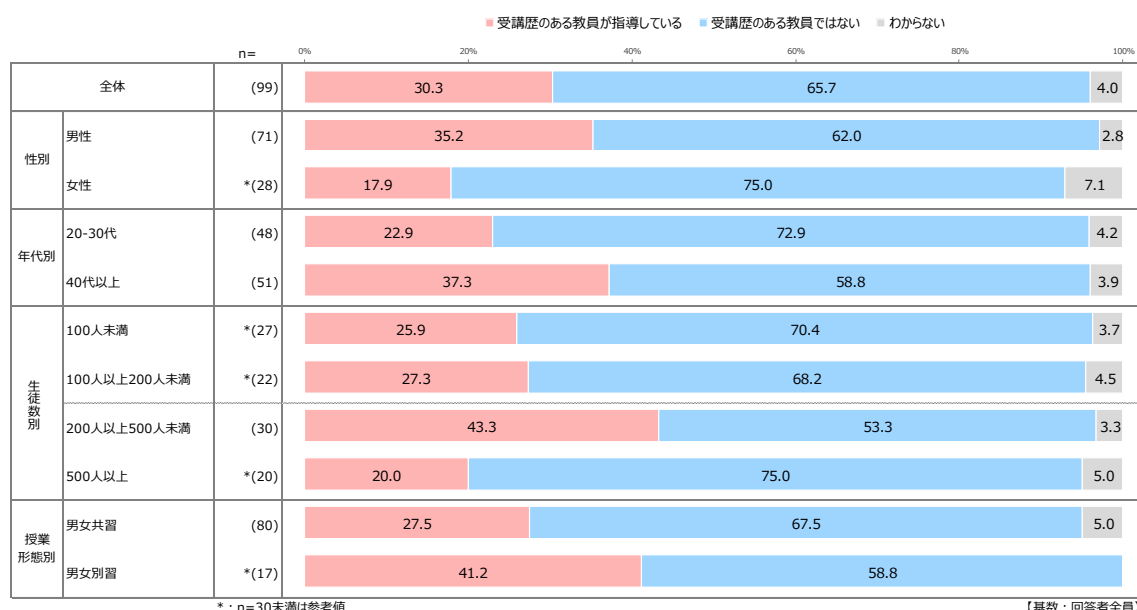


Ⅱ-1-（２）学校武道のための研修受講歴

令和２年度に空手道を実施している 99 校のうち全空連主催の全国空手道指導者学校武道研修会受講歴を持つ教員は 3 割程度であった。当研修は、毎年 8 月の夏休みに空手道会館（東京都江東区辰巳）において 2 泊 3 日、交通費・宿泊費無料で、研修会の中で段位審査会も行われている。それにもかかわらず、受講歴が 30%にとどまったのは、想定していたより低い値であった。より研修会への参加者を増やすためには、一部オンラインによる研修を導入して研修期間を短縮する方法等を模索する必要がある。

また男女別にみた受講歴の割合は、男性の「受講歴あり」が 35%に対して女性の「受講歴あり」は 18%で、女性にとってはより参加が難しい状況がわかる。研修に参加しない、あるいは参加できない理由を今後明らかにする必要がある。

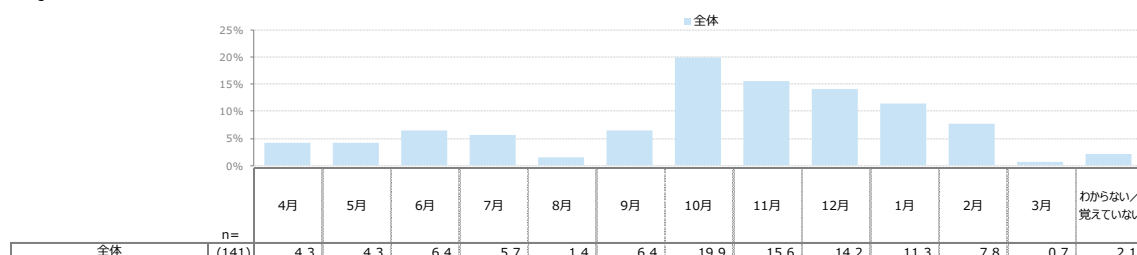
Q18. 学校の空手道授業の実施状況についてお伺いします。全日本空手道連盟主催の「学校武道のための研修」受講歴を持った教員が指導していますか。【単一回答】



Ⅱ-1-（３）授業開始時期

開始時期は 10 月が最も高く、次いで 11 月、12 月と 2 学期に集中していた。これは中学校の行事（運動会等）や、水泳授業などあらかじめ時期が決められている種目との調整によるものと考えられる。柔道・剣道・相撲との違いはみられなかった。

Q10. 令和２年度の武道授業の開始時期はいつでしたか。あてはまるものをお選びください。【単一回答】



Ⅱ-1-（４）年間授業時間数

空手道の指導の授業時間数は1～3 学年まで、6 時間、8 時間、10 時間に多く、各学年での平均時間は7 時間であった。柔道・剣道・相撲においても同様の傾向であった。その一方で、1～5 時間の短い時間で実施している学校もあった。これらの短い時間数の実施は複数種目として空手道が採用されていると考えられる。そのため複数種目としての採用を増やすためには1～10 時間のそれぞれの指導時間数にあったプログラムや教材を作成する必要がある。

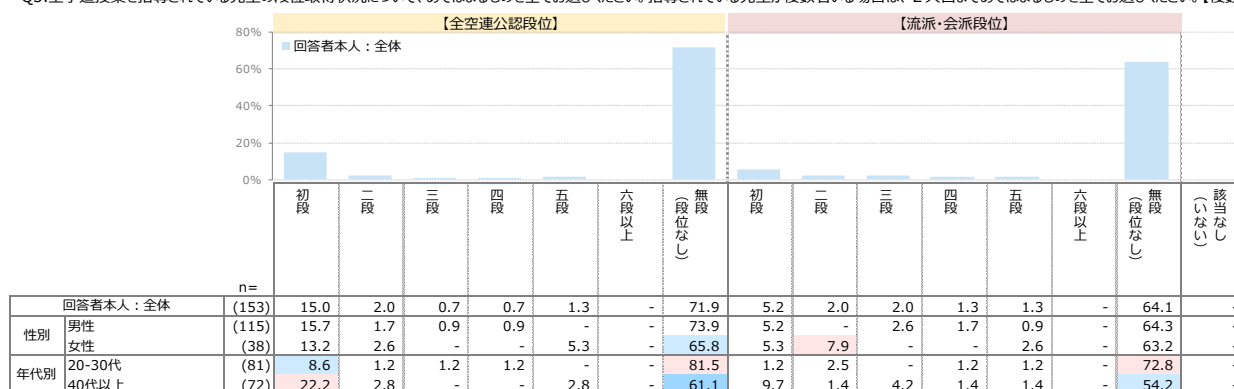
Q9.学校の授業で、以下の武道種目に配当する年間時間数を学年ごとにそれぞれあてはまるものをお選びください。【単一回答】

	全体	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間	12時間	13時間以上 【時間数を入力】	この学年では実施なし	平均時間数
【空手道】1学年（1年生）	(99)	8	3	3	3	2	10	5	18	7	15	0	4	5	16	7.35
【空手道】2学年（2年生）	(99)	6	4	4	4	2	12	5	17	7	15	0	1	5	17	7.13
【空手道】3学年（3年生）	(99)	4	2	2	0	3	6	4	12	4	11	0	1	4	46	7.53
【柔道】1学年（1年生）	(54)	1	1	1	4	0	10	2	19	2	7	0	2	1	4	7.46
【柔道】2学年（2年生）	(54)	1	0	2	4	2	9	0	17	2	6	0	3	1	7	7.45
【柔道】3学年（3年生）	(54)	1	0	2	2	2	5	0	10	2	1	0	4	0	25	7.28
【剣道】1学年（1年生）	(17)	0	0	0	2	2	1	1	7	0	2	0	0	1	1	7.50
【剣道】2学年（2年生）	(17)	0	0	0	2	1	1	1	6	0	1	0	0	1	4	7.46
【剣道】3学年（3年生）	(17)	0	0	0	2	0	2	0	4	0	0	0	1	0	8	7.11
【相撲】1学年（1年生）	(5)	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	7.60
【相撲】2学年（2年生）	(5)	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	6.80
【相撲】3学年（3年生）	(5)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	10.00
【その他武道種目】1学年（1年生）	(4)	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4.25
【その他武道種目】2学年（2年生）	(4)	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4.25
【その他武道種目】3学年（3年生）	(4)	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4.25

Ⅱ-1-（５）指導体制

指導している教員（回答者本人）の段位取得状況は全空連公認段位が約 15%、流派・会派段位は約 5%であった。沖縄県の回答者の約 35%が全空連公認段位の取得者であった。また「段位なし」と答えた回答者は、全空連公認段位で約 72%、流派・会派段位で約 64%であった。今回の調査では、「段位なし」と回答した人がそのまま空手道の授業を指導しているとはいえないが、3 割以上が空手道を専門にしていないう教員のみで空手道の授業を実施していると考えられた。今後それらの教員がどのように空手道を指導し、どのような支援を必要としているか明らかにする必要がある。

Q5. 空手道授業を指導されている先生の段位取得状況について、あてはまるものを全てお選びください。指導されている先生が複数名いる場合は、2 人目まであてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



Q12. 学校での空手道授業の指導体制について、あてはまるものをお選びください。【単一回答】

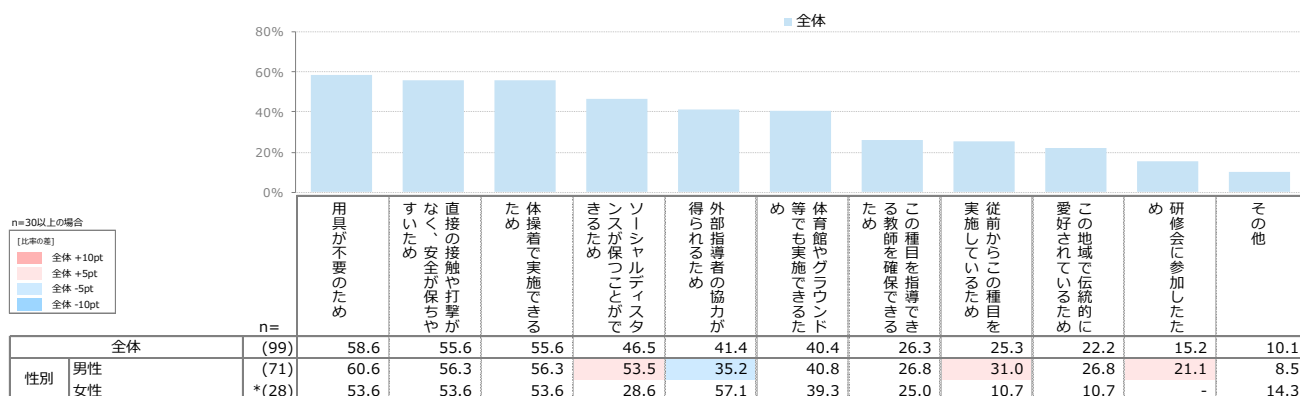
単一回答	n	%
全体	(99)	
保健体育科教員（空手道が専門種目）と保健体育科教員（空手道以外が専門種目）で授業を実施	8	8.1
保健体育科教員（空手道が専門種目）で実施	8	8.1
保健体育科教員（空手道以外が専門種目）で実施	32	32.3
保健体育科教員と他教科の教員（管理職を含む）で実施	6	6.1
保健体育科教員と外部指導者が協力して実施	39	39.4
その他	6	6.1

Ⅱ-2. 授業の実施形態

Ⅱ-2-(1) 空手道を選択した理由

授業で空手道が選定された理由としては、「用具が不要」「直接の接触や打撃がなく、安全が保ちやすい」「体操着で実施できる」が50%以上であり、授業として運営しやすいという面が明らかとなった。またコロナ禍のため「ソーシャルディスタンスを保つことができる」も47%と高い数値を示した。「外部指導者の協力が得られるため」は41%であったが、男女比を見ると男性が35%であるのに対して、女性では57%と高い数値を示した。

Q11. 学校の武道授業の種目で「空手道」が選ばれた理由について、以下の中からあてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



※全体で降順ソート

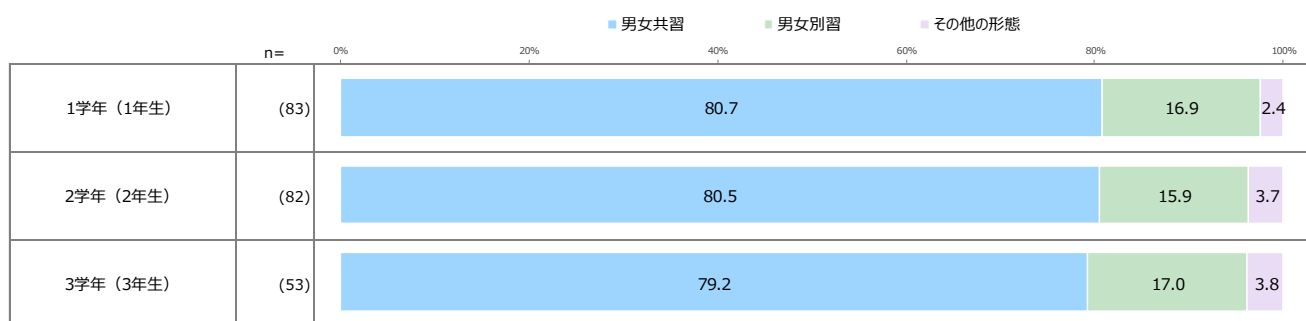
* : n=30未満は参考値

【基数：空手道授業選択者】

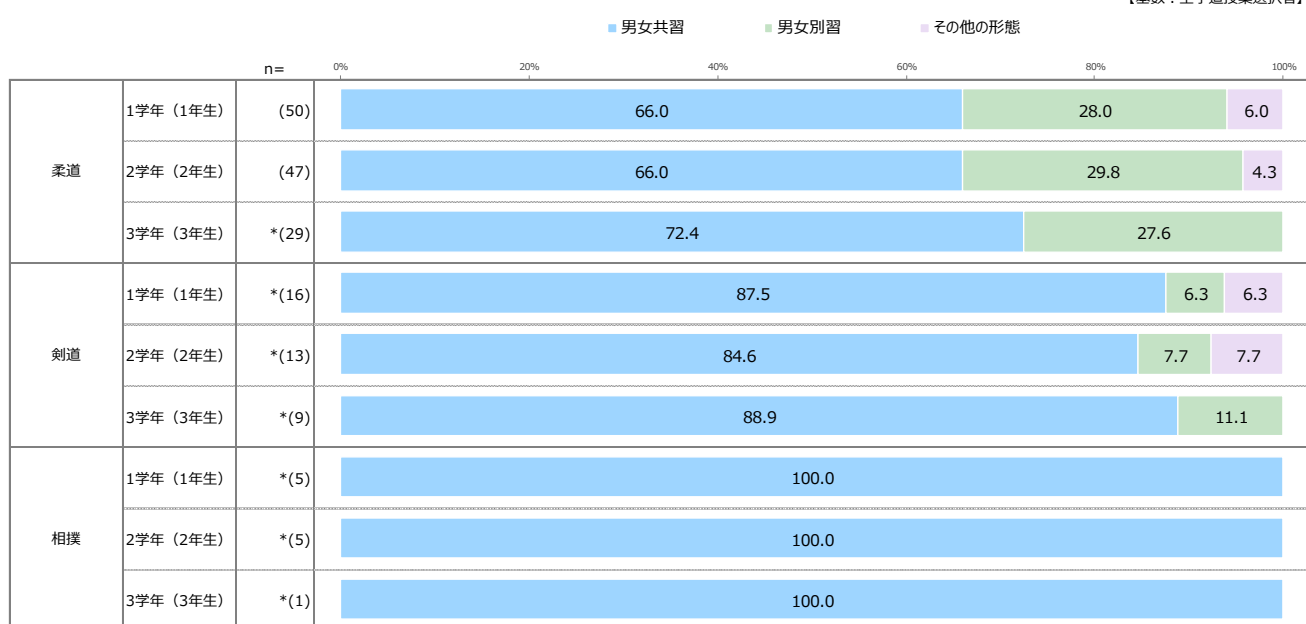
Ⅱ-2-(2) 授業形態

空手道の授業形態では、男女共習が1～3年生とも約80%で、柔道、剣道でも同じ傾向にあったが、相撲では100%であった。

Q13. 学校での空手道授業の形態について、学年ごとにあてはまるものをお選びください。【単一回答】



【基数：空手道授業選択者】



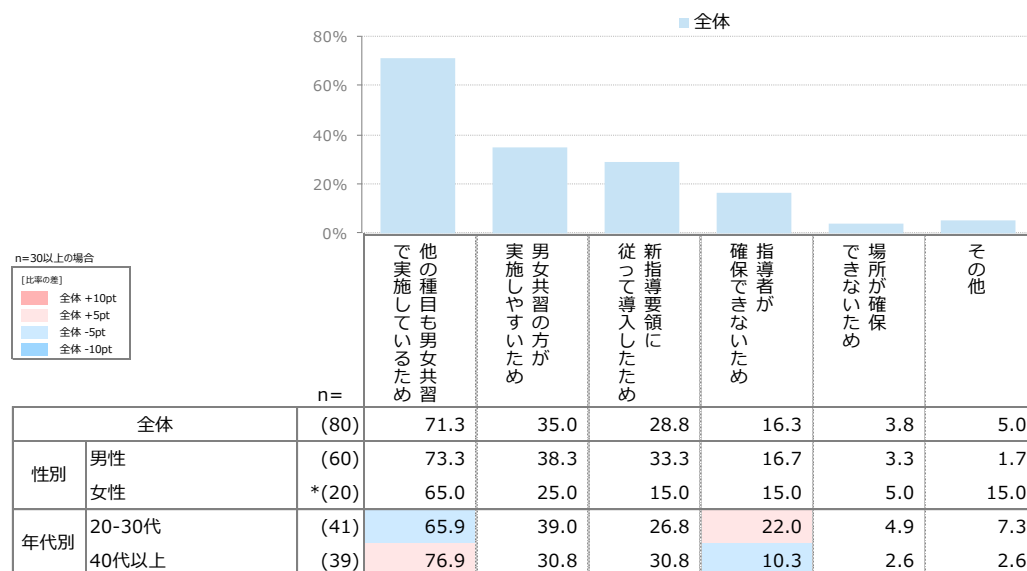
* : n=30未満は参考値

【基数：空手道以外の武道種目選択者】

Ⅱ-2-(3) 男女共習実施理由

男女共習の実施理由は、「他の種目も男女共習で実施」が約71%を占めた。「実施しやすいため」は約35%であったが、接触がない「形」の指導を中心に実施できることや、「約束組手」においても直接の接触なしに実施できるという空手道の強みを示していると考えられる。

Q14.空手道の授業を男女共習で実施されているとお答えの方にお伺いします。男女共習で実施している理由について、以下の中からあてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



※全体で降順ソート

* : n=30未満は参考値

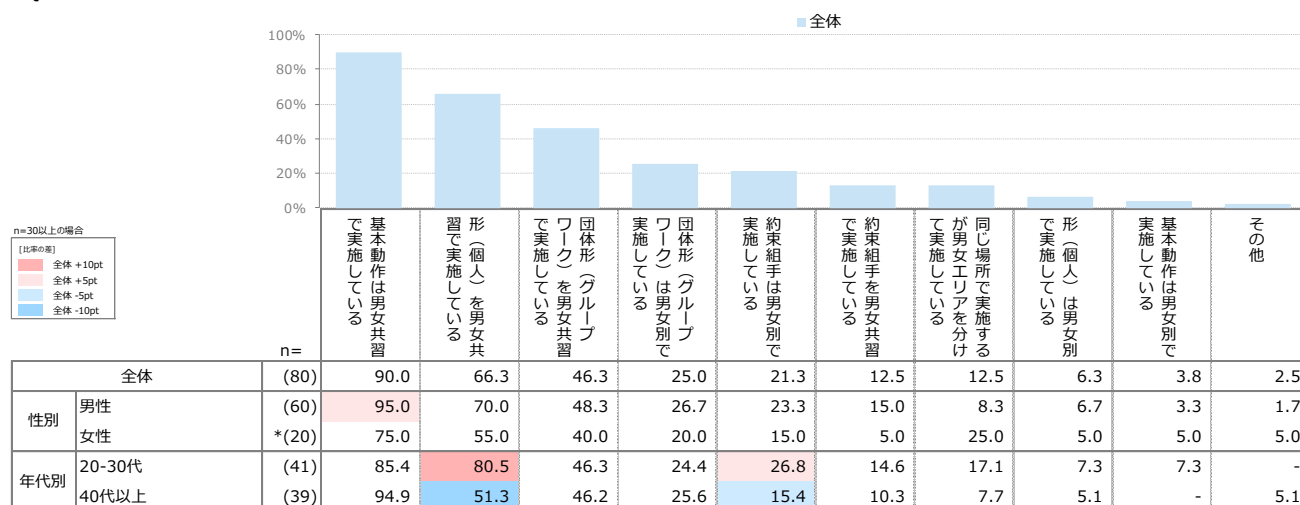
【基数：空手道授業選択者】

Ⅱ-2-(4) 男女共習実施時の工夫

男女共習実施時での工夫では、「基本動作」が90%、「形（個人）」が66%であった。「団体形（グループワーク）」は約46%が共習で実施しているのに対して、男女別で実施しているが25%であった。

約束組手は、「男女共習」で実施しているが約13%に対して「男女別」での実習が約21%となっていた。これは体力差などからケガを発生させないためと考えられるが、今回の調査では明らかではない。また約束組手の実施率は「男女共習」と「男女別」を合わせても約3割と低く、これは時間数の問題があると考えられる。以上のことから「基本動作」や「形（個人）」が男女共習で実施しやすいことが伺える。

Q15.引き続き、空手道の授業を男女共習で実施されているとお答えの方にお伺いします。男女共習はどのような方法（工夫していること）で実施していますか。【複数回答】



※全体で降順ソート

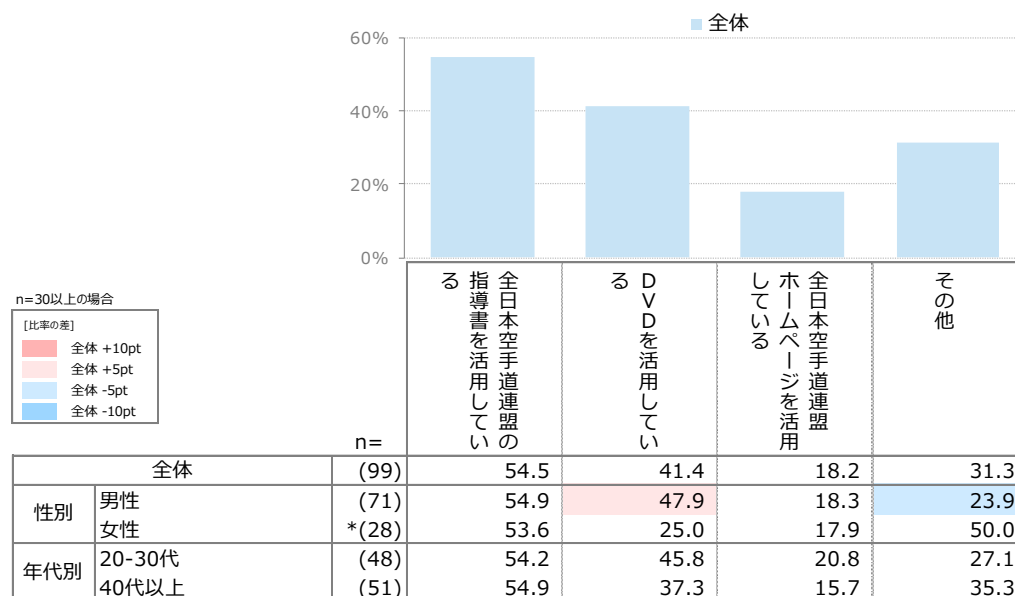
*：n=30未満は参考値

【基数：空手道授業選択者】

Ⅱ-2-(5) 空手道授業の参考教材

令和2年度空手道授業を実施している学校の約半数が全空連の指導書を活用しており、DVDの活用も4割を占めていた。このDVDは、全空連が指導書と一緒に配布している全空連作成のDVDの活用と考えられる。しかし半数の教員が活用していないことになり、その理由を全空連主催の研修を受講していない理由とともに調査する必要がある。また女性の教員の方がDVDの活用の割合が低かった。

Q24.学校の空手道授業では、どのようなものを参考に実施していますか（してきましたか）。あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



※全体で降順ソート

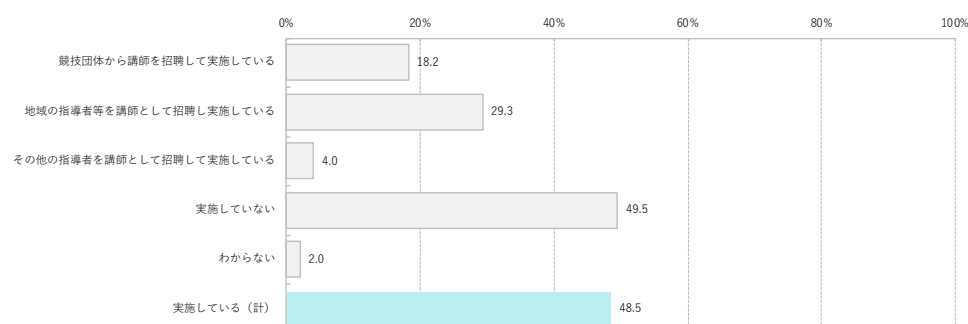
*: n=30未満は参考値

【基数：空手道授業選択者】

(6) 外部指導者の協力

授業の実施にあたって、外部指導者の協力を得ているのは全体の約半数であり、最も多いのが「地域の指導者等」の協力であった。約半数は外部指導者の協力を得ていないことになる。また令和2年度実施校の内、空手道が専門でない教員は30%以上と推察される（Q12.より）。なお学校武道のための研修の受講歴がない教員は約66%いる（Q18.より）。それらの教員が何を参考にして指導を実施しているかは明らかではない。

[Q19]引き続き、学校の空手道授業の実施状況についてお伺いします。学校外の外部指導者の協力を得て実施していますか。
(n=99)

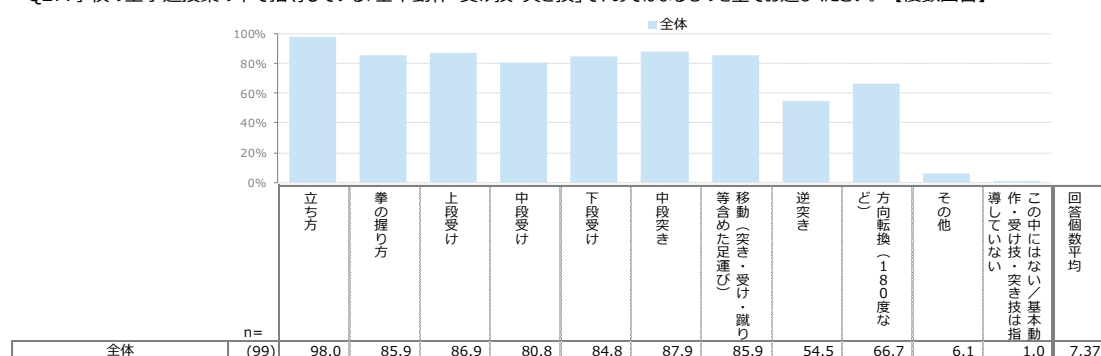


Ⅱ-3. 授業の内容および成果

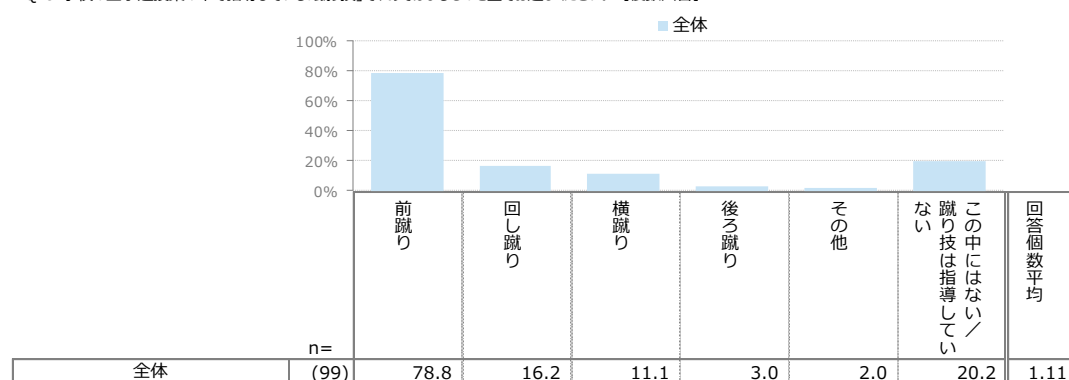
Ⅱ-3-(1) 授業の指導内容

授業の内容は「立ち方」、「拳の握り方」、「上段受け」、「中段受け」、「下段受け」、「中段付き」、「移動（突き・受け・蹴り等を含めた足運び）」は80%～98%であった。一方蹴り技は、前蹴り79%、回し蹴り16%、横蹴り11%であった。

Q27.学校の空手道授業の中で指導している「基本動作・受け技・突き技」で、あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】

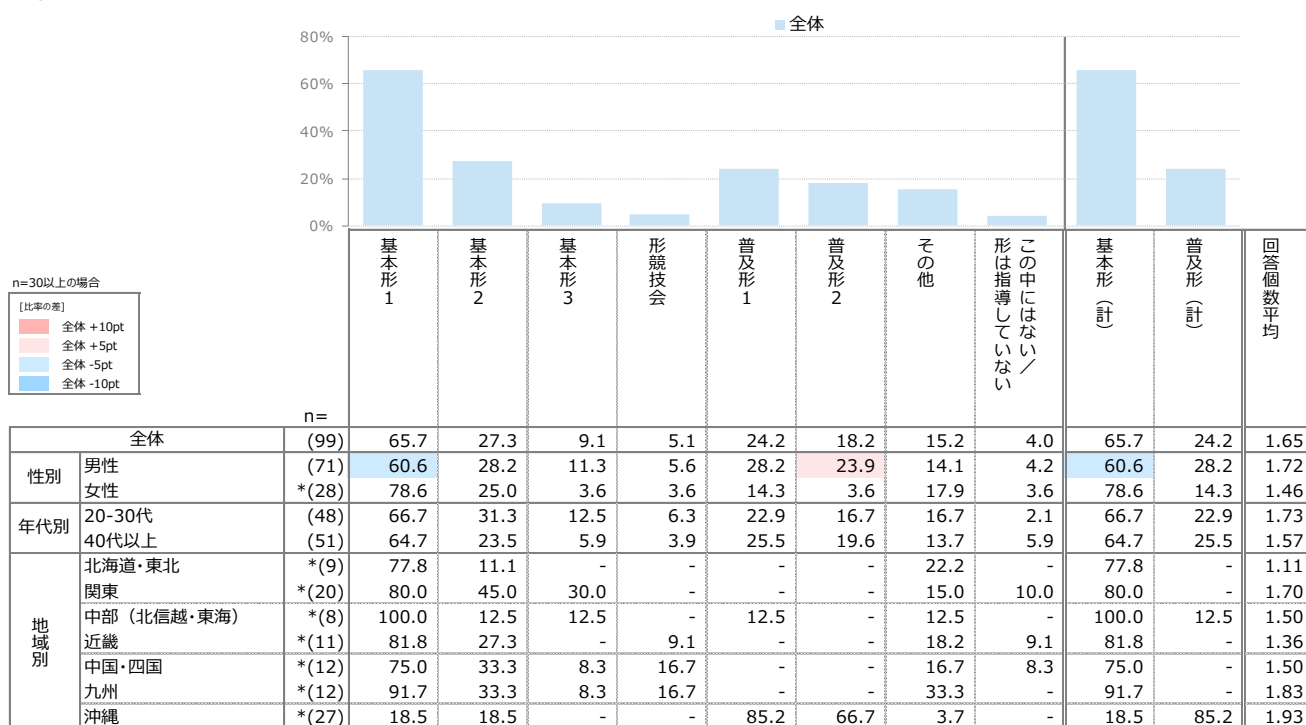


Q29.学校の空手道授業の中で指導している「蹴り技」で、あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



複数回答のため正確な割合はわからないが、形の指導は全空連の基本形と沖縄県を中心に指導されている普及型を合わせると約90%に及ぶと考えられる。

Q31.学校の空手道授業の中で指導している「形」で、あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



* : n=30未満は参考値

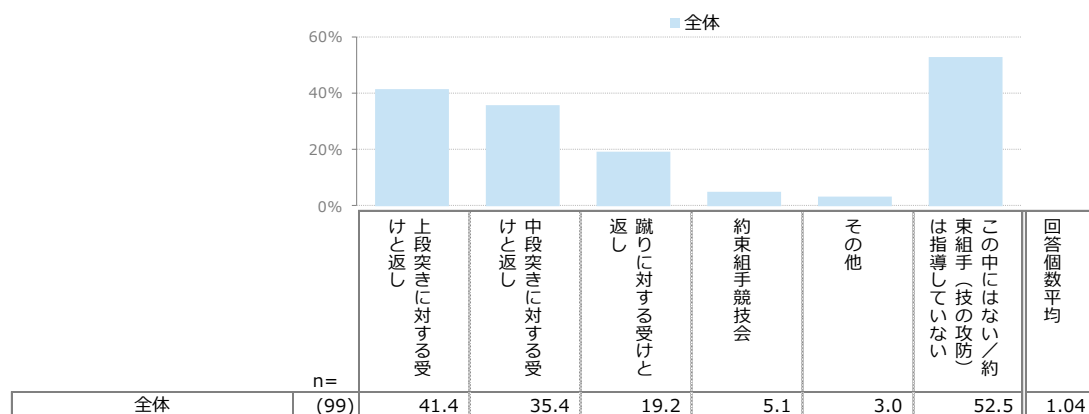
【基数 : 空手道授業選択者】

また約束組手を指導していない学校は約半数で、その理由としては「授業時間数の問題（約 44%）」や「指導者の指導力の問題（約 31%）」であることが明らかとなった。

Q33. 学校の空手道授業の中で指導している「約束組手（技の攻防）」で、あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】

Q34. 前問で空手道授業の中で「約束組手（技の攻防）」は指導していない、とお答えの方にお伺いします。指導していない主な理由は何ですか。【複数回答】

空手道授業の中で指導している「約束組手（技の攻防）」



指導していない理由

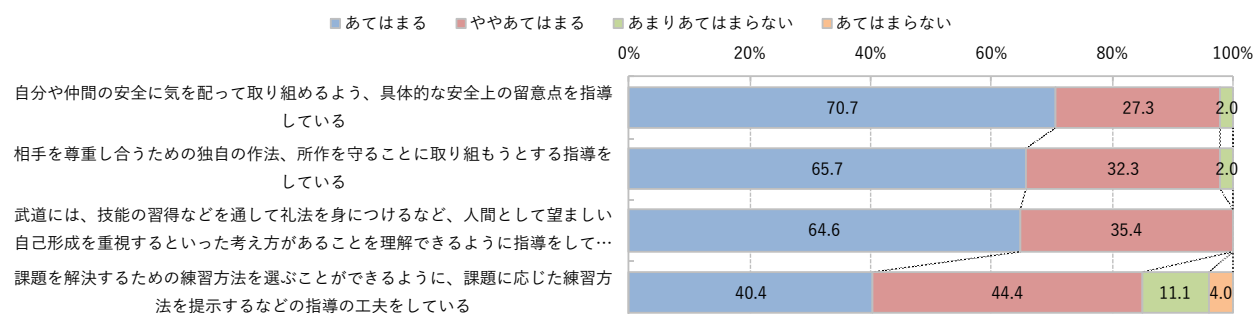
	全体 (n=52)
指導書・DVDの問題	-
指導者の指導力の問題	30.8
生徒の関心・意欲の問題	9.6
授業時間数等の年間指導計画の問題	44.2
施設・設備の問題	-
用具の問題	9.6
その他	28.8

【基数：「約束組手」非指導者】

Ⅱ-3-(2) 指導状況

指導上の留意点においては、ほとんどの指導者が「具体的な安全上の留意点の指導」、「相手を尊重し合うための独自の作法、所作を守ることに取り組もうとする指導」、「自己形成を重視するといった考え方があることを理解できるように指導」を行っていると回答している。一方「課題解決のために課題に応じた練習方法を提示する等の指導の工夫」においては、「あてはまる」の回答者は40%程度で最も低く、この項目が課題であることが明らかになった。この項目は「基本動作」や「約束組手」よりも「形」、そして「個人での形」よりも「団体で形」を学ぶときに必要となってくる。この項目で「あてはまる」の回答者を増やすためには、教材に具体例を挙げることが考えられる。また複数種目として短い時間数での実施を考えると、「基本動作」の指導においても、この項目で「あてはまる」と回答できるように具体例を挙げる必要がある。

Q26.空手道授業の指導状況について、以下の項目それぞれにあてはまるものをお選びください。【単一回答】

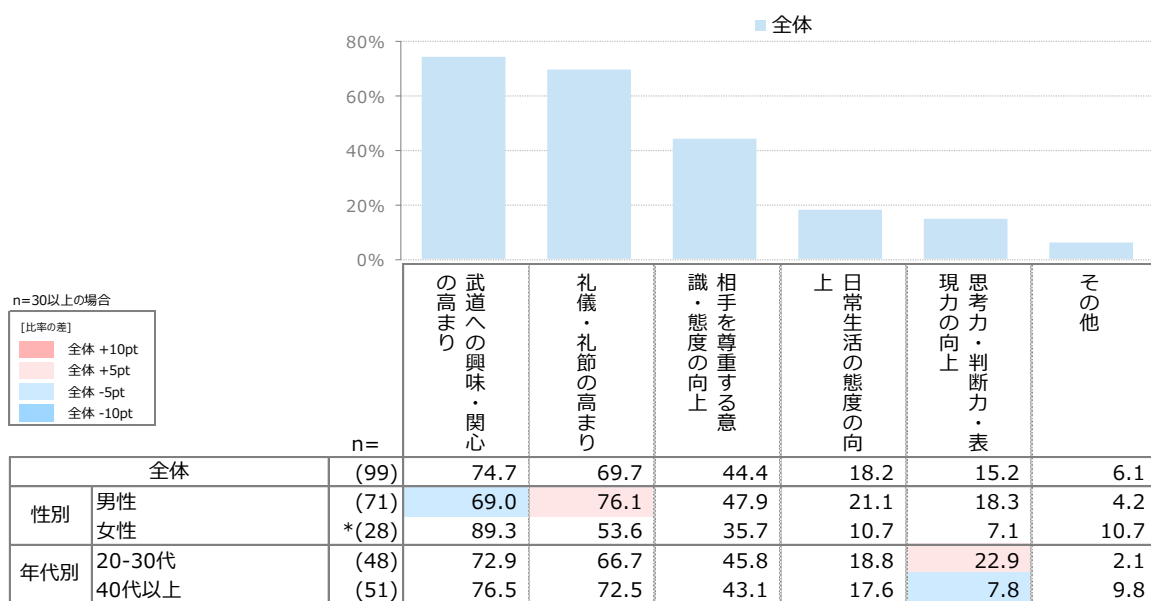


Ⅱ-3-(3) 授業実施による生徒の変化

指導の成果として、「武道への興味・関心」、「礼儀・礼節」の高まりが約75%と70%と高く、次いで「相手を尊重する意識・態度の向上」が約44%であったが、「日常生活の態度」や「思考力・判断力・表現力」の向上が低い結果となった。

課題としては、「礼儀・礼節の高まり」を「日常生活の態度の向上」へと繋げること。また複数種目として短い時間数で実施するときのために、「基本動作」の練習においても「思考力・判断力・表現力」が向上するように指導内容を工夫する必要がある。

Q25. 学校の空手道授業を実施することで、生徒にはどのような変化がみられましたか。あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



※全体で降順ソート

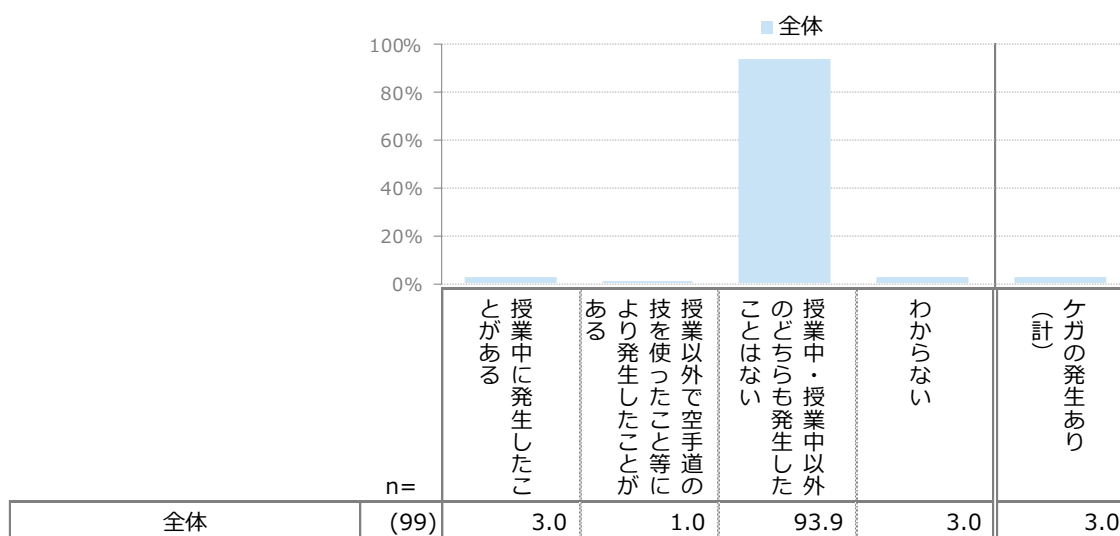
* : n=30未満は参考値

【基数：空手道授業選択者】

Ⅱ-3-(4) 安全対策およびケガの発生

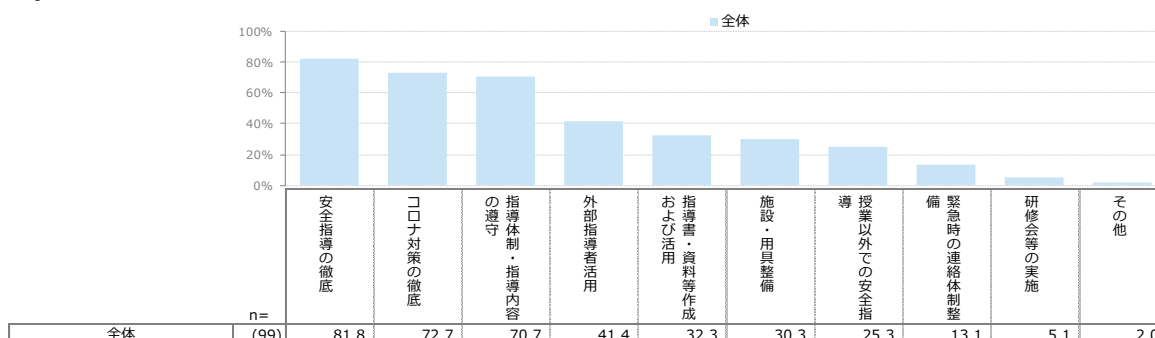
「ケガの発生の有無」では授業内外で4%と極めて低い値であった。これは「基本動作」および「形」において個人やグループで一定の距離を保って実施可能なこと、そして「約束組手」での攻防技においても、お互いに離れた状態で接触なく実施できることに起因していると考えられる。さらに、多くの指導者が「安全指導の徹底」や「指導体制・指導内容の遵守」を行っていたことが挙げられる。また今年度はコロナ禍のため、安全対策の取り組みにおいて「コロナ対策の徹底」が8割に及んだ。

Q20.令和2年度に学校の空手道授業の中あるいは、授業以外の休み時間等で、空手道によるケガは発生したことはありますか。【複数回答】



ケガの内容
団体演武の実施中に、足の指を畳と畳の間にひっかいた。
強く早く動く動作のとき
見本で中段前蹴りをして、払い受けをするよう指示したが払い受けをふざけながら行ったため手首に足が当たり、痛みを感じた。

Q23.学校の空手道授業について、どのような安全対策の取り組みをしていますか（してきましたか）。あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】

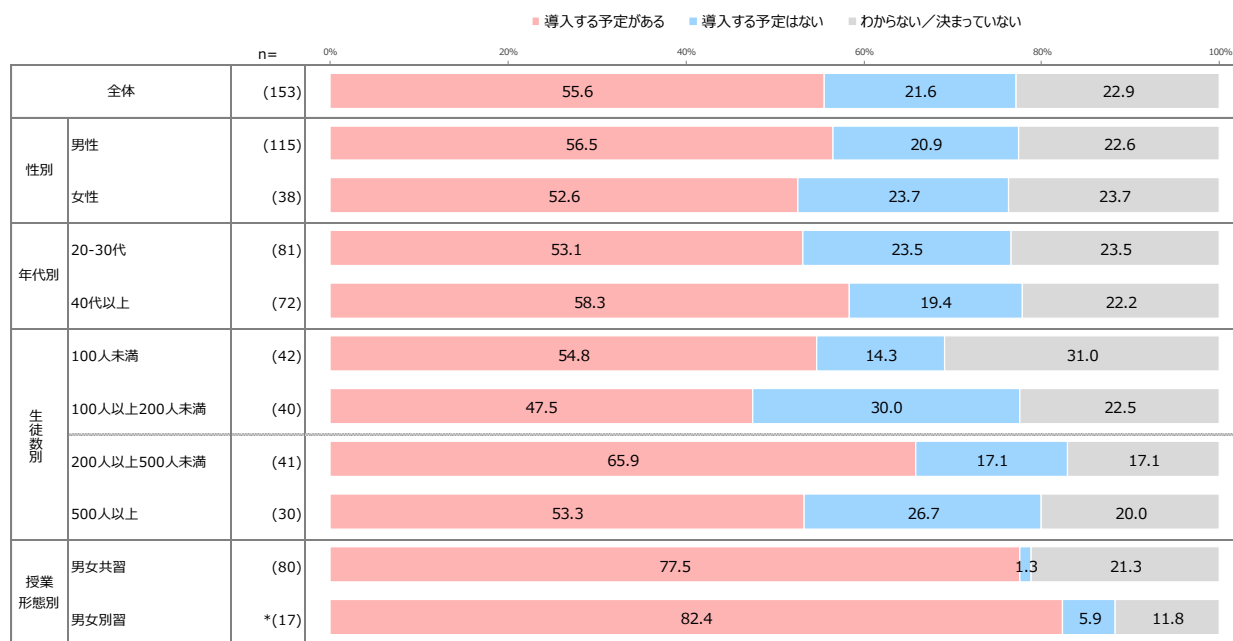


Ⅱ-4. 今後の課題

Ⅱ-4-(1) 次年度空手道授業の導入予定

次年度以降の空手道授業導入に関しては153校の回答者の6割（56%）が「予定」があると回答している。153校のうち今年度（令和2年度）空手道授業を実施していたのは99校であることから、今年度実施校における「次年度以降の空手道授業の導入予定」がある割合は60%より高いと考えられる。

Q35.次年度以降も空手道を授業に導入する予定はありますか。【単一回答】



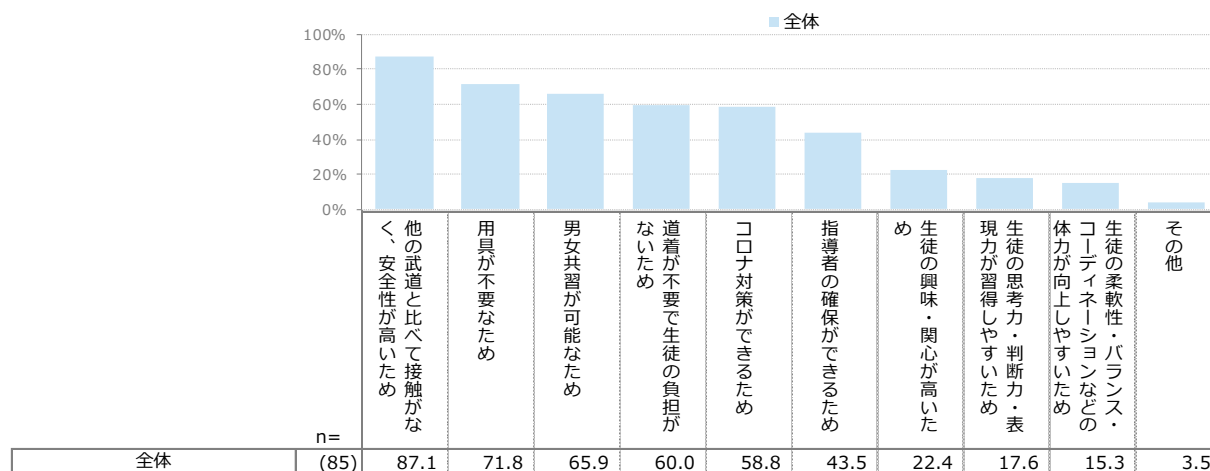
* : n=30未満は参考値

【基数：回答者全員】

Ⅱ-4-(2) 導入予定の理由

「導入予定の理由」においては、「思考力・判断力・表現力の習得」や「体力の向上」などの効果の面よりも「安全性が高い」「用具が不要」「男女共習が可能」「道着不要」等の授業の実施しやすさが評価されていた。今後は「効果の面」でも評価されるように指導内容を工夫することが課題となる。

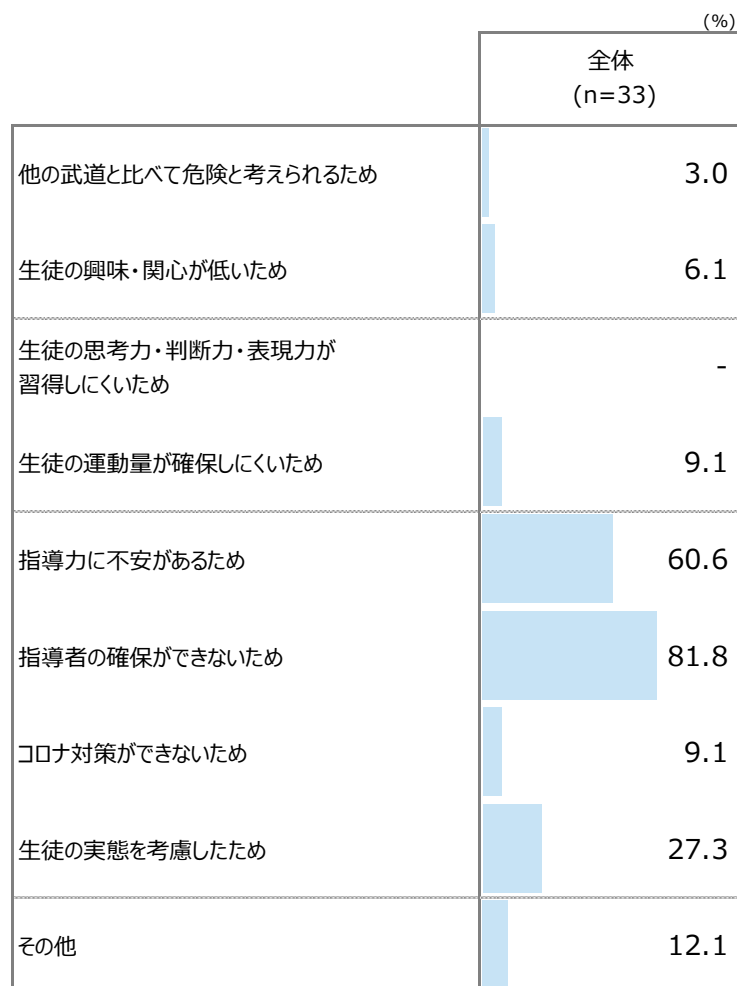
Q36.前問で、次年度以降も空手道を授業に導入する予定がある、と回答した方にお伺いします。導入する理由について、あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



Ⅱ-4-(3) 導入しない理由

「導入しない理由」としては、「指導力に不安がある（60%）」、「指導者の確保ができない（82%）」といった指導者の問題が挙げられている。今後、授業協力者の確保とともに空手道を専門としない教員が研修会に参加しやすいように工夫することや研修内容および教材の質をより高めていくことが課題となる。

Q37.前問で、次年度以降に空手道を授業に導入する予定がない、と回答した方にお伺いします。導入しない理由について、あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



【基数：空手道授業の導入予定がない指導者】

Ⅱ-5. 生徒を対象とした空手道授業の調査

Ⅱ-5-(1) 生徒の属性

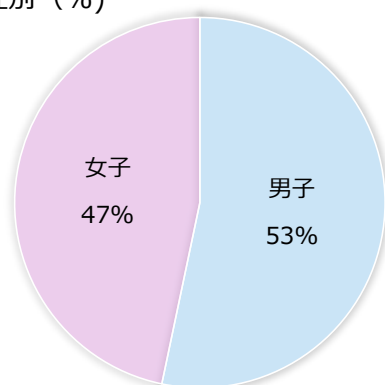
豊嶋と井下は、令和2年度に空手道の授業を実施することになった2校（長生村立長生中学校・板橋区立市村第三中学校）の保健体育教員等と連携して、男女共習による武道種目（空手道）授業を外部講師として指導した。2名は全空連学校武道推進委員である。空手道授業を指導したのは、長生中学校では1～3年生の1時間目、志村第三中学校では男女2年生、特別支援学級の1時間目、男子2年生および特別支援学級の2時間目であった。

生徒対象の調査は1時間目の授業終了日に調査用紙を配布し、362名の回答を得た。

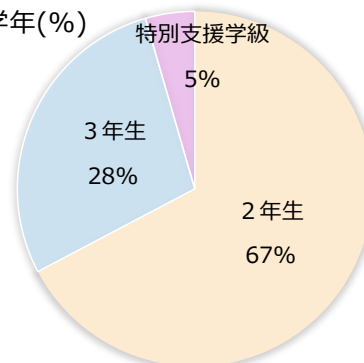
生徒の男女の割合は約50%であり、学年は2学年の生徒が67%、3学年が28%、特別支援学級の生徒が5%であった。生徒の空手道の経験では、有りは10%未満であり、ほとんどの生徒が初めて体験する武道種目であった。

性別 (%)

n=379名

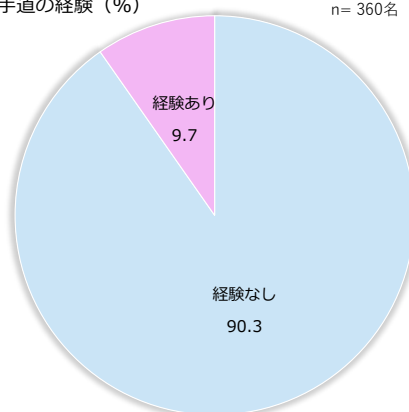


学年 (%)



空手道の経験 (%)

n= 360名



Ⅱ-5-(2) 男女共習による空手道授業の学習内容と調査

① 1時間目の男女共習による空手道授業の内容

長生村立長生中学校では武道種目として8時間空手道授業を実施したうちの1時間目の指導であり、板橋区立志村第三中学校では男子2時間、女子1時間のみ実施したうちの1時間目を指導した。両中学校ともに1時間目の授業は男女共習で実施した。1時間は特別支援学級と普通学級の生徒が共に学習した。

指導内容は、礼法、空手道の動作を用いた準備運動（ストレッチと体力トレーニング）、空手道の基本の立ち方（並行立ち・前屈立ち）、上段・中段・下段受け、その場中段突き、前進しながらの中段突き、前蹴り、約束組手、新聞紙を用いて突きで穴を開ける課題等とした。なおコロナ禍のため、体育館で小グループに分け、2m以上の距離を保つように工夫し、発声・かけ声は無い状態で授業を実施した。

② 1時間目の男女共習による空手道授業の調査

90%以上の生徒が「礼法や基本動作のわかりやすさ」、「安全にケガなくできた」の項目で「そう思う」か「だいたいそう思う」の評価であった。70%の生徒が「空手道に対する興味・関心」、「礼儀・礼節」、「相手を尊重する意識・態度」、「課題解決能力や工夫」の項目において学習効果を実感していた。

学習内容では、「突き」、「受け」の基本動作だけでなく、「移動をともなう攻防動作」、「相手との攻防を想定した動作」等でも5割を超える生徒が習得できたと回答していた。このことから、1回の授業でも学習効果は得られる可能性が示された。しかし、「他の武道より楽しく取り組めた」は約5割、「他の武道よりも興味・関心・意欲が高まった」では約4割にとどまったが、これは1回のみの授業後の調査であったためと考えられる。

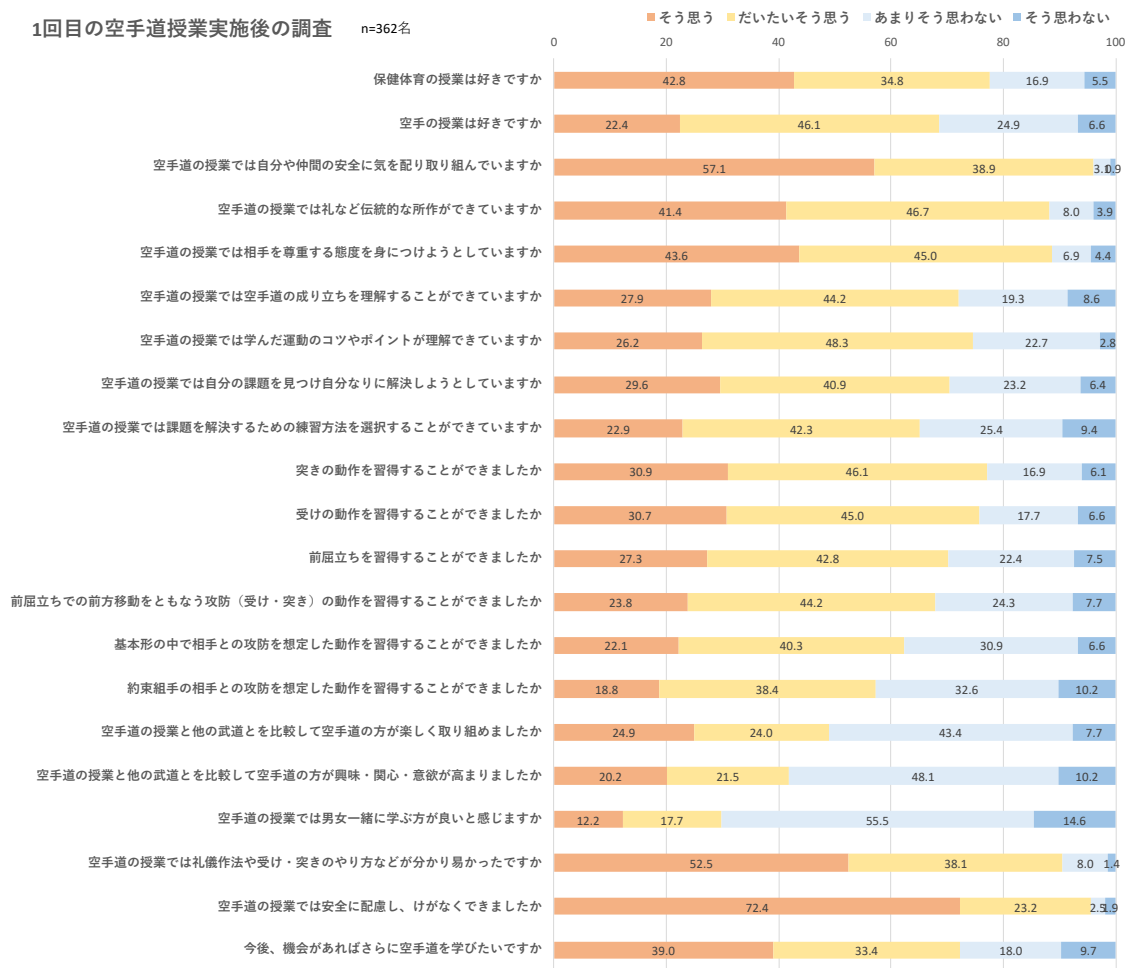
男女共習による実施については、7割の生徒が男女共習を希望していないということが明らかになった。

空手道の授業では男女一緒に学ぶ方が良いと感じますかの質問で「そう思う」、「だいたいそう思う」と答えた人は自由記述で以下のように回答していた。

- | | |
|-------------------|----------------|
| ・他の人の姿がより深く見れる | ・みんなでやる方が楽しいから |
| ・友情が深まるから | ・男女差別をなくすから。 |
| ・男女でしか学べないことがあるから | ・効率がいいから。 |
| ・色々な人の空手が観れるから | ・周りを見て学べるから。 |
| ・男女の仲がいいから | ・ダメな理由がないから。 |
| ・教え会えるから。 | ・一体感が生まれるから。 |

1回目の空手道授業実施後の調査

n=362名



Ⅲ. まとめ

これまでの研究成果を下記の３点にまとめる。

Ⅲ-1. 今回の調査で明らかとなったこと

- ・ 全日本空手道連盟（全空連）主催の学校武道の研修会受講歴を持つ教員は３割程度であった。男子の３５％の参加に対して女性は１８％で、女性にとってはより参加が難しい状況がわかる。
- ・ 空手道の指導の年間授業時間数は、各学年とも６時間、８時間、１０時間に多く、学年での平均時間は７時間であった。その一方で、１～５時間の短い時間で実施している学校もあった。
- ・ 指導体制においては、３割以上が空手道を専門にしていない教員のみで空手道の授業を実施していると考えられた。
- ・ 授業で空手道が選定された理由としては、「用具が不要」「直接の接触や打撃がなく、安全が保ちやすい」「体操着で実施できる」が５０％以上であり、授業として運営しやすいという面が明らかとなった。「外部指導者の協力が得られるため」は４１％であった。
- ・ 男女共習の実施理由は、「他の種目も男女共習で実施」が７０％を占め、「実施しやすい」は３０％程度であった。
- ・ 「団体形（グループワーク）」は約４６％が共習で実施しているのに対して、男女別で実施しているが２５％であった。
- ・ 「基本動作」や「形（個人）」が男女共習では実施しやすい。
- ・ 令和２年度空手道授業を実施している学校の約半数が全空連の指導書を活用していた。
- ・ 外部指導者の協力を得ているのは全体の約半数であり、最も多いのが「地域の指導者等」の協力であった。
- ・ 形の指導は全空連の基本形と沖縄県を中心に指導されている普及型を合わせると約９０％に及んでいた。
- ・ 約束組手を指導していない学校は約半数で、その理由としては「授業時間数の問題（約４４％）」や「指導者の指導力の問題（約３１％）」であった。
- ・ 指導の成果として、「武道への興味・関心」「礼儀・礼節」の高まりが約７５％と７０％と高く、次いで「相手を尊重する意識・態度の向上」が４４％であったが、「日常生活の態度」や「思考力・判断力・表現力」の向上が低い結果となった。
- ・ ケガの発生の有無では授業内外で４％と極めて低かった。
- ・ ９０％以上の生徒が「礼法や基本動作のわかりやすさ」「安全にケガなくできた」の項目で肯定的評価であった。

- ・ 70%の生徒が「空手道に対する興味・関心」、「礼儀・礼節」、「相手を尊重する意識・態度」、「課題解決能力や工夫」の項目において学習効果を実感していた。
- ・ 70%の生徒が男女共習を希望していなかった。

Ⅲ-2. 今後の調査によって明らかにする必要があること

- ・ 全空連主催の学校武道のための指導者研修に参加しない、あるいは参加できない理由。
- ・ 空手道を専門にしていない教員が、どのように空手道を指導し、どのような支援を必要としているか。
- ・ 約束組手を「男女共習」で実施している理由、および「男女別」での実施の理由。
- ・ 全空連の指導書を活用していない理由。

Ⅲ-3. 今後の課題

- ・ 教員が全空連主催の研修に参加しやすいように一部オンラインを利用して参加期間を短くする方法を模索する。
- ・ 複数種目として指導しやすいように1～10時間の各指導時間数に応じた指導計画や教材を作成する。
- ・ 指導上の留意点において「課題を解決するための練習方法を選ぶことができるように課題に応じた練習方法を提示するなどの指導の工夫」ができるように具体例を示す。また複数種目として短い時間数での実施を考えると、「基本動作」の指導においても、同様の具体例を示す。
- ・ 「礼儀・礼節の高まり」を「日常生活の態度の向上」へと繋げるために指導内容を工夫する。
- ・ 「基本」の練習においても「思考力・判断力・表現力」が向上するように指導内容を工夫する。
- ・ 空手道授業の実施によって「効果の面」の評価が高くなるように指導内容を工夫する。
- ・ 授業協力者の確保と資質の向上が必要である。
- ・ 研修および教材の質をより高める。